



## 再定住した難民の生活向上をはかる様々な支援方法に効果があるという確固たる証拠はない



新しい土地に住み移り再定住した難民らの経済格差の緩和と生活向上のための支援にはなにが最善なのか、ほとんどわかっていない。

### このレビューの目的とは

このキャンベル体系的レビューは、新たな土地に再定住した難民の経済的自立と生活向上のための支援プログラムの効果を調査するものである。このレビューでは、23の関連研究が特定されたが、いずれも調査研究デザインにおいて論拠が不十分であったため、この分析に含めることができなかった。

再定住難民の経済的自立と再定住難民の生活を改善するための支援プログラムが実際有効かどうかを判断するには、十分な証拠がない。このことは、これらのプログラムには重要な効果がない、と意味するものではなく、利用可能な証拠がこれらの影響が何であるかを示していないことを意味する。

### このレビューは一体なにか？

世界では、5,950万人を超える人々が自国などから強制退去させられており、うち1950万人が難民に分類されている。難民の再定住プログラムは、特別なニーズを持っている人や、最初に保護を求めた国以外の国に移住しなければならない人に提供されている。現在、米国、カナダ、オーストラリアを含む28カ国が、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に登録されたプログラムを提供している。米国だけでも毎年10億ドルをこれら移住プログラムに投資している。

再定住プログラムの一つの目的は、難民の経済自立を促進することである。支援プログラムには、就労トレーニング、教育、精神保健サービスが含まれる。しかし、再定住した難民は、多くの場合高い失業率と貧困にあえいでいる。

このレビューは、再定住難民の経済的自立と生活レベルを向上させる支援プログラムの効果を評価する。これら支援での成果とは、雇用、現金援助、所得レベル、雇用を継続できる能力、生活の質である。

### レビューの主な結果は何だったか？

#### レビューにはどの研究が含まれていたか？

対象となる調査研究は、政府再定住プログラムに参加し、またそのプログラムが施行されている時点で18～64歳の難民らのプログラム後の成果を調べる。このレビューの包括的基準を満たした研究はなかった。

23の研究が確認されたが、これらはレビューには含まれなかった。なぜなら、それらの調査で測定された効果が支援プログラムによるものかどうかははっきりわからなかったからである。



## 難民の助けになることは一体なにか、そして再定住プログラムは効果的なのか？

利用可能な証拠に欠けるということは、再定住難民の経済的自立と生活向上のための支援を我々がどのようにすればいいのかわからないということの意味している。これは、移住難民のためのプログラムがいい効果も悪い効果もない、というわけではない。利用可能な証拠が、プログラムが効果的だったかを判断するには不十分である、ということだ。再定住プログラムは、難民を移住させるという目標も達成しており、難民の安全性など、ここでは調査されていない他の多くのポジティブな効果もある。

## このレビューの結果の意味は？

再定住難民のための支援プログラムは、政策にも多大な影響があり重要であるし、かかる費用のレベルや、影響を受ける人々の数を考えると、これら支援プログラムに関して細かい研究と知識が不足していることは驚きである。

こういった弱点は正式に確認されておりたとえば米国政府会計検査院などは「どのようなアプローチが、難民の経済状況を改善するために最も効果的であるかほとんど知られていない」としている。

政策立案者らは、人々に情報を提供できるような確固たる研究調査なしに決断をせざるを得ない難しい状況に立たされている。

再定住難民を支援するプログラムの効果については未知の領域があり、その部分は厳密な調査によって埋められていくべきである。調査研究は論点と目的を明確にして伝えられるべきである。適切な比較グループや、主な成果に関する計画的なデータ収集などを含めた、安定した強固な研究方法が使用されるべきである。

## このレビューはどのくらい最新のものか？

レビュー著者は、1980年から2013年9月までの介入についての研究を検索した。このレビューは2015年1月に出版された。

## キャンベルコラボレーションとは何か？

キャンベルコラボレーションとは、体系的なレビューを出版する、国際的、自発的、非営利の研究ネットワークである。私たちは、社会科学および行動科学のプログラムに関して、それらがどれだけ立証できるかその質を評価したり、要約をおこなったりしている。私たちの目標は、人々がより良い選択をしたり、より良い政策決定を促進することである。

## この要約について

この要約は、Campbell Systematic Review 2015: 13、Eleanor Ott と Paul Montgomery (DOI 10.4073/csr.2015.4) 著「再定住難民の経済自立と生活向上のための介入」に基づき、Simon Goudie (Campbell Collaboration) によって書かれた。Anne Mellbye (R-BUP) は要約をデザインし、そしてその要約はHoward White (Campbell Collaboration) とEleanor Ottによって編集された。